

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590300051		
法人名	株式会社 おいでの里		
事業所名	グループホーム スローシティ ピアノ	ユニット名	ソナタ
所在地	宮崎県延岡市平原町1丁目 854-1		
自己評価作成日	H30年12月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内
訪問調査日	平成31年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スローシティピアノでは「ゆっくり」を基本に日々の暮らしがその人らしく過ごせる様に、本人に合わせた支援を行っています。食事や他者との会話や交流が楽しみとなり、音楽療法や回想療法で、認知症の進行防止に努めています。医療と連携し、毎日の健康管理や感染症予防に力を入れ、利用者様の健康維持に取り組んでいます。地域密着として近隣の商店や地域への食材を利用し、ご家族やボランティア、保育園、学校等の訪問を受け、利用者様との触れ合いを持ち、防災についても訓練での自助や地域との共助でできるように努力しております。認知症学会や専門研修に参加し、国家資格所得を目指し、日々学習しています。認知症に対しての理解深め、実践につなげ、利用者様が自宅に居るような馴染みの関係が出来、ご家族様、近隣や他事業者も訪問しやすい、明るく、温かく、優しい気持ちになるようなホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体として、複数の介護事業の実践があり、精力的に事業展開がなされている。法人の理念である「ゆっくり」を基本にケア提供の取り組みに努力がなされている。ほぼ毎日、訪問診療があり、医師の訪問の際には相談できる態勢になっているため職員側の安心感にもつながっている。入居者・家族にとっては、医療・介護両面からの見守りがある状態で、安心できる生活が送られている。管理者は、職員の働きやすい環境づくりに努め、楽しみながらケアの提供ができるような雰囲気づくりと行事の企画等を考えている。職員間の関係も良好な状態が保持できており、職員の持つ特技が発揮され、お互いが頼り頼られる関係づくりと同時に楽しみながらのケアにつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念に基づき利用者の尊厳を尊重し、個々のニーズに応えられる事が出来るように、月に一度の定例会や毎朝の申し送り、職員間での情報共有し同じ目標を持ち理念に沿ったケアが出来るようにしている。	法人全体の理念にある「ゆっくり」を基本に職員間でも共通認識の元に開設当初からケアの提供に努めているが、グループホーム独自の理念が作成されていない。	法人全体の理念を基に、事業所理念を職員と共に作成し、より分かりやすい表現にして共有することで、職員の理解度も深まり実践につながることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア、保育園、小中学校、高校生の訪問での交流、行事 防災訓練等の参加によって日常的に交流できるようにしている。	自治会加入もあり回覧物も回ってくる。重介護者の増加に伴い、地域の行事等には参加しにくい状況があるが、来訪者が多くいつでも受け入れる態勢にあり交流できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月一の定例会での研修や高校生の職場体験、舞踊カラオケでのボランティア訪問、夏祭りでの高校生の手伝い等で理解支援を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、第二木曜日に運営推進委員会を開催し、活動報告、利用者の状況、今後の活動予定等を報告している。利用者家族も参加され意見交換を行っている。	行政・入居者家族・地域住民代表参加による運営推進会議は定期的に行われている。地域内の情報等を得る場にもなり、その中で出た意見が防災のための設備等に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者に、電話や、直接出向き、支援方法などを学び、且つ指導を受けている。	市町村担当との関係は良好に維持され、困難ケースなどの相談を行い、適切な助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は利用者の安全を考慮しインターホン対応にしている。研修や指導、話し合いで身体拘束をしない様取り組んでいる。また、定期的に身体拘束をしないケアの検討を行っている。	玄関は中からは自由に出入りができるが、建物のシステム上、外部からはインターフォンを使う。外出欲求が出た場合は、職員が共に行動する。出現する状態に応じたケアの工夫を職員間で常に話し合い、拘束はしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会や研修等で学んだ事柄を話し合いチームでケアが虐待になっていないか確認し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護の制度について認識している。職員も勉強会や研修、資格取得で知識を得て認識できる様教育を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定の際は、利用者や家族等の納得がいくまで説明を行い、締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等から意見、要望がでると、即決に対応し改善策を考案しチーム連携を図り解決している。運営推進委員会でも報告し意見等を頂き運営に反映させている。	家族の面会が多くあり話を聴く機会が多い。遠方の家族、忙しい家族とはメールの活用も取り入れており、要望、意見はいつでも聴く態勢ができています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見や提案がでると、職員みんなで話し合い室長から管理者へ話をあげるシステムをとっている。加えて、管理者会議、リーダー会議、定例会、ユニット会議等、意見交換の場を設けている。	職員間の人間関係が良好に保持されており、何でも話し合える雰囲気になっている。新しい行事などの提案も十分な話し合いがなされ、実施に結びつき継続されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は、管理者を通して就業環境等の話ができるようにしている。管理者が代表者へ話をつなぎ意見や要望、相談ができるようにしている。又、意見やアドバイスをすることでやりがいがあり向上心が持てる職場環境構築へと繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多くの社員が定例会での勉強会、研修等に参加している。初任者研修や介護福祉士の実務者研修など受講、資格取得しスキルアップへと繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設からの見学や当施設への訪問や見学での意見交換を行い、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃から利用者とのコミュニケーションを大切にし、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、信頼関係を築き安心して生活できる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時の家族とのコミュニケーションを大切にしている。家族の不安、要望に耳を傾けながら職員が気付いた事など、意見交換を行うことで信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報提供をもとに話し合いサービス導入時すぐに対応できるように、利用者が何を求めているか、どんな支援が必要かを見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事は行っていただき、共感信頼し役割りを持っていただき共に支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時状況報告はもちろんの事、当施設での行事等を通して利用者や家族の絆が深まるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理・美容室や食事処や買い物に家族と出かけられている。家族だけではなく、昔の同僚や友人、地域の方との面会があり、馴染みの関係が続くように支援している。当施設でドライブも計画している。	入居前の高齢者クラブからプレゼント品も届けられ、入居前の生活の中にあつた楽しみを継続している入居者もある。入居前の馴染みの関係を絶たないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のコミュニケーションを大切にしており、席順や配置に気を配り問題なく関わり合いが持てるように努めている。また食事は特別な事情がない限り全員食堂で出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば支援していくように努めている。必要に応じて本人や家族の経過をフォローし相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりとコミュニケーションをとり利用者本位の支援が出来る様に全職員が情報を把握し共有が出来るように努めている。	入居前の個々人の生活面等の情報把握に努める。職員間では声かけの際の言葉の統一を図り、同じ声かけで安心できる対応を心がけている。顔の表情、態度にも注意を払い、表出できない想いを汲み取る努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報を元に、利用者のこれまでの生活の仕方、馴染みの物等を活用し、これからの生活が今までと大差なく出来るように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子観察・バイタルチェック・介護記録・朝礼や申し送り等で職員全員で状況を把握し、また申し送りノートを作成し共有出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、各関係機関、介護、医療などを含め意見を出し合い、その意見を基に現状に即した介護計画書を作成し家族にモニタリングを行っている。	日々の記録様式に個別の介護計画も記され、個々人の介護計画に沿ったケアの提供に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの一日の様子を記録して職員間での情報の共有を介護記録にて行っている。また気づきに関しても記載し実践に活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族からの要望や状況に応じて柔軟な対応が出来るように支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内の小学校、中学校、高校生徒の訪問や保育園児とのふれあい、また県内からの公演・演芸による慰問活動を受け、刺激のある暮らしを楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の協力機関をかかりつけ医とし、定期的な訪問診療があり、適切な医療が受けられるよう支援している。	入居の際に、法人母体の医療機関をかかりつけ医とする同意が得られており、定期的な訪問診療が受けられている。看取り態勢にもつながり、重度化した場合も安心できる生活の継続になっている。同時に他科受診もできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で連絡ができる体制をつくっており、介護職が日常の管理を行い、状況の変化を管理者・看護師に報告し協力医からの指示を受け、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、家族や病院関係者と密に連絡を取り、協力医との連携で情報交換や相談に努めている。また退院についても情報交換をし環境を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や利用者の状況の変化に伴い、看取りに関する説明をし、利用者や家族の意向に沿って医療機関と連携を図り、看取りが安心して出来る様に支援している。	入居時に終末期の意向確認まで行うことで、ほとんどの入居者が事業所内での看取りを希望している。母体医療機関との連携が十分に図られ、入居者・家族は安心してきている。開設後9年の間に10名の看取りが行われ、希望する家族は泊まることもできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生に備え、応急処置や初期対応の訓練を行い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上の避難訓練を行い、指定の避難場所の把握やそれまでの道順を熟知している。又、行事であるドライブ時の誘導を災害時と想定し安心安全に誘導している。非常時の備えも備蓄している。	ドライブなどの外出時に誘導時間を計測し、職員側は非常時に備えている。災害時のことなど家族とも話し合いを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族からの情報で本人の性格等を知り、日々の生活の中で得た情報によりその人に合った言葉かけや対応が出来るように努めている。トイレの閉塞感を嫌がる利用者に対し、カーテンで仕切りプライバシーの確保に努めている。	入居者個々人に対して、不安材料に関する応答の際の言葉の統一を行っている。連携ノートが作られ、ノートを見て情報を得、安心できる声かけに努めている。トイレ内のプライバシーの確保に細心の注意を払い、排泄行為はトイレを基本としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、利用者一人ひとりの思いや希望に気づき、肯定し自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ、その日の希望に沿って支援出来る様に常に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服に関しては、本人の意思を確認しながら選択して頂いている。また、毎月の活動予定の中にお洒落の日を設け、化粧やマニキュアを塗ったりと楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器や盛り付けに工夫をし視覚から喜びが得られるよう努めている。また手作りおやつや旬の食材を取り入れ食事が楽しみとなるように支援している。医療からの制限や特食を考慮した食事内容もある為工夫が必要である。	重介護の入居者が増え、調理の手伝いは無理になっているが、茶碗拭きなどできることを手伝ってもらっている。おやつ作りは参加でき、楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は随時記録に記載を行っている。嚥下困難な方には、ミキサー食やトロミを使用、寒天等でその人に合った対応をし支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。準備や声掛けを行い、出来る部分を本人にしてもらい出来ない部分を職員が援助している。必要に応じて義歯洗浄剤を使用し洗浄・消毒をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録や排泄の状態観察から情報を把握し本人の排泄パターン・仕草や表情からその人に合った排泄を行えるよう支援し可能な限りトイレでの排泄が出来るようにしている。	排泄記録、本人の顔の表情、素振りからトイレ誘導の声かけを行うことで、オムツの使用が少なくなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫やヨーグルト等で腸に良い物を提供したり、便秘の原因である運動不足や水分不足を改善し、排泄状況の観察をし指示の下剤を使用し調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外は入浴できるようにしており、生活習慣や本人の体調に沿って、入浴して頂く。好みのシャンプーやタオル等を使い、楽しみを持ちながら入浴できるように支援している。	体調の観察を行いながら2日に1回の入浴を提供している。重度化に伴い、浴槽内につかることが困難になっている入居者にはシャワー浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況によって、居室の照明の強弱や室温等の配慮に努めている。眠れない時には、寄り添い話を傾聴し安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は処方箋にて職員がいつでも確認でき把握できるようにしている。名前や日付を2重3重確認し、誤薬が起こらないよう努めており、薬の変更や留意事項はその都度申し送りノートに記載し観察・報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いで簡単な野菜の皮むきや洗濯物干しやたたみ、台拭きや縫物等を出来る範囲でして頂く事で役割がもてている。感謝の気持ちを忘れず伝える事で、楽しみとなっている利用者もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得て、外出・外食をされる方もおられ、利用者一人ひとりの希望に沿って散歩やドライブ等行っている。また同法人で行う催し物には、できるだけ全員参加を心掛けている。	季節ごとの行事を企画し、そのときの季節を感じてもらおう工夫に努めており、概ね月に1回は何かの行事が行われる。また、職員もいっしょに楽しむ支援ができるような企画を考え、入居者及び職員のやる気を引き出すようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして事務所で管理しているが、個人で財布を管理している方もいる。お小遣いは主に本人の日用品を購入している。一緒に出掛ける際は本人がお金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった際は電話を使用している。また、暑中見舞いや年賀状のはがき作成の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の清掃・換気を毎日行い、季節に応じた室温設定の管理を行う事で居心地の良い空間を提供できるよう努めている。またその季節時期にあった飾り付け・花を飾り安心して生活できる様工夫している。	全館が木の床になっており温かみを感じられる。ソファの設置があり、入居者が寝転ぶ姿も見られ、落ち着いた居心地よい共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに3~4人掛けソファや一人掛けソファにテーブルもある為、自由に使用できる空間を作っている。中庭にも自由に出入りができ、草木や花を鑑賞できる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッドとエアコンが設置しており、馴染みの家具や絵を飾ったり植物を飾ったりと自由に配置することで、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室入り口に家族または職員と二人で写った写真が貼ってあり、自分の居室とわかる工夫がされている。年を重ねるごとに写真を撮りなおし、今の自分がわかるようにしている。来訪する家族にも好評を得ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで廊下・トイレ・玄関・風呂場等は手摺を設置している。またホール内のレイアウト等にも職員が注意を払い危険が潜んでいないかを常に考え安全な環境を提供できるよう努めている。		